

がん診療連携拠点病院 広報誌

がん診療ニュース

Cancer Medical News

2013年9月
第3号

発行 | 佐賀大学医学部附属病院 広報委員会 〒849-8501 佐賀市鍋島5丁目1番1号 TEL0952-31-6511(代)

佐賀県医療センター好生館

佐賀県医療センター好生館
がん診療部長
消化器外科部長

佐藤 清治



化学療法個室

好生館は本年5月7日、佐賀市嘉瀬町大字中原に「佐賀県医療センター好生館」という新名称で再出発をいたしました。未だ若干の混乱はみられますが、なんとか順調な滑り出しで機能しております。病床数は450床と変わりませんが、個室率が全体の35%となりました。

さて新病院では、がん診療にも強化した体制となっております。まず「診断部門」として放射線機器類の機能や内視鏡設備が充実しました。320列という国内最新のCT装置をはじめ多くの最新機器に加え、動線の改善により正確・迅速な診断が可能となりました。また「手術部門」では手術室が様変わり致しました。広々とした各手術室には天井からの吊り下げモニターが設置され、現在では主流となっている鏡視下手術が、より高い精度でかつ安全に施行できるようになりました。より快適な環境で各術者の更なる技術向上も期待されます。

「がん化学療法部門」では嬉野部長をはじめ腫瘍内科医スタッフが2名となり他科と連携しながら幅広い対応が可能となりました。採光を取り入れプライベートに配慮したベッドエリア、リクライニングチェアエリアという快適なスペースへと一新された外来化学療法室で、スタッフ一丸となりチーム医療を実践し、さらに質の高い化学療法の提供を目指しております。

以下、「緩和ケアセンター」小杉部長からのメッセージを転載致します。

「好生館の緩和ケアセンターは緩和ケア病棟と緩和ケアチームで構成されています。緩和ケア病棟は旧病院では本館とは離れた南棟にありましたので、少し隔絶された印象は否めませんでした。しかし、新病院では同じ建物の中の一病棟として、一般病棟の患者さんにとってより身近な存在となりました。病棟のバルコニーからは雲仙の眺望が楽しめます。また、病棟は多くのポランテアによって支えられており、新病院開設にあわせてピアノ購入の募金活動にも多くの方がご賛同下さいました。好生館内だけではなく、より地域に開かれたホスピスとしてお力添えをいただき、貢献出来ることを願っております。緩和ケアチームは緩和ケア病棟以外の病棟に入院されている患者さんを対象に活動しております。終末期だけでなく、診断の初期から関わることを目指しております。また、好生館だけではなく、地域の緩和ケアチームとなるべく連携活動するよう努力しております。」

皆様、今後とも当館との医療連携をよろしくお願い申し上げます。

佐賀大学医学部附属病院の「がん」に対する取り組み

佐賀大学医学部附属病院は、平成21年に「がんセンター」を設置しました。ただし、センターという建物があるわけではなく、バーチャルな組織として横断的にがん診療を担うものとして組織されました。そして平成22年3月には佐賀県の推薦を受け厚生労働省から、都道府県がん拠点病院の指定を受けました。がんセンターでは、医療スタッフが診断から治療、さらに緩和医療や気持ちの問題、社会的経済的側面についても連携をとることを目的に、がんの診療に携わる全ての診療科、看護部、薬剤部、検査部、その他コメディカルスタッフが一緒に運営しています。

がん診療に携わるスタッフの育成にも力を注ぎ、がん薬物療法専門医6名、がん看護専門看護師1名、がん診療に関する認定看護師2名、がん専門薬剤師1名、がん薬物療法認定薬剤師4名と徐々に専門資格を有するスタッフを徐々に増やしています。

現在病院は再整備中で、皆様にはご迷惑をおかけしておりますが、平成29年に完成を予定しています。建物だけでなく、医療機器にも佐賀大学では順次最新鋭のものを導入し、日進月歩の医療の進歩に対応しています。放射線科では、平成22年に形だけでなく機能の検査も可能なPET-CTを、平成25年には血管の走行や大腸の内部など非常に微細な写真も取れる320列CTを導入しています。またよりピンポイントで放射線治療を行うため、IMRT(強度変調放射線治療)も開始しています。さらに九州国際重粒子線がん治療センター(サガハイマツト)との連携し、治療も行っていく予定です。

手術器具としては、平成22年に国立大学では初めて佐賀大学が手術支援ロボット・ダ・ヴィンチを導入し、さらに2台目の導入も予定しています。全国の大学病院をはじめ徐々に手術支援ロボットの普及が始まっていますが、ロボット手術が腹腔鏡手術と同様に保険診療として認められ、腹腔鏡手術を超える手術成績を広く患者さんに提供できるような術式に発展させることは、佐賀大学の使命だと考えています。

内科系では、肝臓がん死亡率全国ワーストワンの汚名を返すべく、肝疾患センターを平成24年に設置し、肝炎ウイルス検査受診の啓蒙活動や適切な肝炎、肝臓がん治療が受け易くなるように環境整備に努めております。また新たな抗がん剤の開発も産学連携に取り組んでいます。血液・腫瘍内科では、オーロラキナーゼ阻害剤AT9283(英国ASTEX社)、佐賀県に多い成人T細胞性白血病に対する新規抗がん剤NK314(日本化薬)やブラジルトグリ草から抽出した新規抗がん剤GUT-70などの開発を行っています。また全自動CT解析装置(キヤノン)や全自動遺伝子解析装置(ARKRAY社)などががんに関わる検査法の開発も行っています。

今後も、佐賀大学医学部附属病院のスタッフが一丸となって佐賀県のがん治療の向上に努めて参ります。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



内視鏡を使わずに大腸の画像検査ができます



手術支援ロボット

佐賀大学医学部附属病院

佐賀大学医学部附属病院
がんセンター長

木村 晋也

がん診療連携拠点病院の紹介

唐津赤十字病院

唐津赤十字病院 副院長
がん医療推進センター長

湯ノ谷 誠二



新病院完成予想図

唐津赤十字病院におけるがん治療に対する新たな取り組み 一新病院を目指して

本年度中に、佐賀県北部医療圏の地域医療センターエリア整備の中心事業としての本院新築移転工事を開始するために、現在、新病院の実設計の真っ只中に在ります。新築移転を前にして、本院での今後のがん治療に対する取り組みに関して述べさせていただきます。

・がん専門職の確保：増加の一途をたどる肺がん治療において、本院でも本年度4月に初めて呼吸器科専門医を確保し、鏡視下手術も含め肺がんの手術件数も増加していますが、今後新病院移転に向けて、腫瘍内科医・緩和ケア医等の専門医、チーム医療の面からがんに係わる認定薬剤師・看護師、臨床心理士、MSW等の専門職の確保・育成を更に進めて行きます。

・手術室：本院におきましても、がんの手術件数は増加していますが、近年、特に、患者さんに「やさしい」鏡視下手術の普及には目を見張るものがあります。本院でも大腸がんに対する鏡視下手術の施行割合は既に90%を超えており、更なる手術室の充実が必要となって来りました。新病院では将来の色々な手術法の変化に対応出来るように、平均50㎡前後の比較的大い手術室を6室設置し、少なくとも2室は鏡視下手術専用となるように設計を進めています。

・化学療法：化学療法の発達により、本院においても外来化学療法室での治療件数は平成20年度の1306件から同24年度の1950件へと急増しています。この状況に対応するため、新病院では外来化学療法室のベッド数を現在の10床から20床へと倍増し、医療安全や機能面を考え、本室を薬剤部に隣接して配置することにしました。また、現在5件のがん関係の治験に参加していますが、今後もこのような治験には積極的に参加し、治療法が費えてしまったがん患者さんの手助け、延いては新しいがん化学療法の確立に微力ながらも寄与できれば、と考えています。

・緩和ケア：本院での緩和ケアチームへの依頼件数は平成20年度の28件から同24年度の62件へと倍増しています。新病院での緩和ケア病棟の設置につきましては議論がありましたが、現時点では急性期病院として、非常勤緩和ケア医師の勤務日数の増加、本院緩和ケアチームのレベルアップ、かかりつけ医や介護等を含めた地域連携の更なる強化等により対応して行くこととしました。

いずれにしても、新病院新築移転の前に、がん医療のあらゆる方面においてそれぞれの内実を更に充実させるための努力を続けていかなければならないと考えています。

「がん治療に対する新たな取り組み」

嬉野医療センターはベッド数424床で、平成19年に地域がん診療連携拠点病院の指定を受けました。平成24年度にはがん患者の会を立ち上げました。また医療従事者を対象として緩和ケアにおけるリハビリテーション技術、がん看護に関する研修会も行いました。

当院のがん治療に関する新たな取り組みとしては放射線治療医の常勤化、放射線治療装置の更新が挙げられます。

がん治療の3本柱といわれる放射線治療も、近年急速に普及し、新規がん患者さんの3割に用いられるようになってきました。いっぽう欧米先進国では、放射線治療はがん患者さんの6割に用いられており、まだまだ、多くの患者さんが、その恩恵にあずかっていないことも事実です。

嬉野医療センターでも、平成25年4月より、常勤の放射線治療専門医が赴任しました。また平成25年5月7日より、新しい放射線治療機器が稼働しました。その性能は、九州においてもトップレベルであり、定位放射線治療や強度変調放射線治療(IMRT)などの高精度放射線治療にも対応可能な機器となっています。これに伴い、佐賀県南西部の患者さんに、より安全で質の高い放射線治療を提供できる環境は整いました。放射線治療の特徴として、①病気を治すことから症状を緩和することまで、目的が幅広いこと、②治療後も機能や形態をある程度維持することが可能であり、治療に伴う生活の質の低下が最小限に抑えられること、③全身的な身体への負担が少ないことから、外来通院が可能であること、が挙げられます。患者さんの病状や治療内容、副作用、生活について、患者さんと共に考え、共に悩み、治療を受けられたことが、患者さんの幸せにつながることを目標に努めていく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、平成25年夏より、鳥栖で九州国際重粒子線がん治療センターが本格稼働します。嬉野医療センターは、医療機能連携協定書を締結しており、重粒子線がん治療適応の相談や紹介を行っていきますので、お気軽に放射線治療外来までお問い合わせいただければと考えます。



clinac_ix

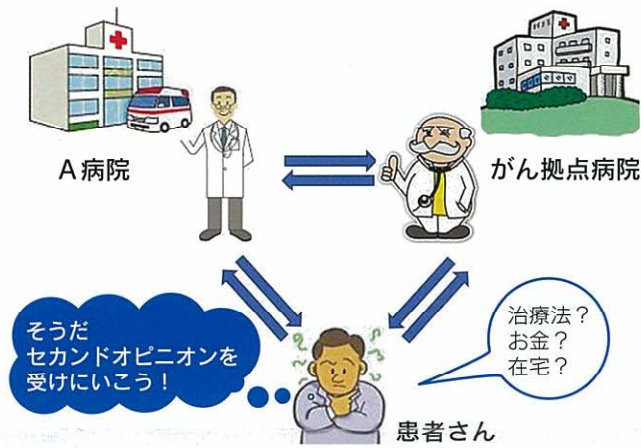
嬉野医療センター

独立行政法人国立病院機構
嬉野医療センター
内科系診療部第一部長

副島 佳文

セカンドオピニオン

セカンドオピニオンとは、患者さんが自分に最も適した療法を選択するために、診断内容や治療方針について主治医（現在かかっている医療機関の担当医）以外の医師に意見を求めることです。現在治療中の病状について重大な決断を迫られたら、病状や治療法についての情報や知識が少ない患者さんやご家族にとっては、大きな不安となります。このような時、セカンドオピニオンの提供を受け、十分な理解を得ただけであれば、主治医と方針を相談する一助となり、納得・安心して治療に取り組むことができます。がん拠点病院では、セカンドオピニオンを求められる患者さんを対象に、現在の診断・治療に関して各がん拠点病院の専門医が意見を提供しています。佐賀県内の4つのがん拠点病院のセカンドオピニオン受け入れの状況は右のようになっています。もちろん他県の患者さんにもセカンドオピニオンを提供することは可能です。



種別	佐賀大学医学部附属病院		佐賀県医療センター好生館		唐津赤十字病院		国立病院機構嬉野医療センター	
	対応状況	対応診療科	対応状況	対応診療科	対応状況	対応診療科	対応状況	対応診療科
肺がん	○	血液・腫瘍内科 呼吸器外科	○	呼吸器内科 呼吸器外科	○	内科 外科	○	呼吸器内科 外科
胃がん	○	消化器内科 一般・消化器外科	○	消化器外科	○	内科 外科	○	消化器科 外科
大腸がん	○	消化器内科 一般・消化器外科	○	消化器外科	○	内科 外科	○	消化器科 外科
肝がん	○	肝臓・糖尿病・内分泌内科 一般・消化器外科	○	肝胆膵内科 消化器外科	○	内科 外科	○	消化器科 外科
乳がん	○	一般・消化器外科	○	乳腺外科	○	外科	○	外科
脳腫瘍	○	脳神経外科	○	脳神経外科	○	脳外科	○	脳神経外科
眼・眼窩腫瘍			○	眼科	○	眼科	△	眼科
口腔がん・上顎がん・下顎がん	○	耳鼻咽喉科 歯科口腔外科	○	耳鼻咽喉科			○	耳鼻科
咽頭・喉頭がん	○	耳鼻咽喉科	○	耳鼻咽喉科			○	耳鼻科
甲状腺がん	○	耳鼻咽喉科	○	耳鼻咽喉科	○	外科	○	耳鼻科
食道がん	○	消化器内科 一般・消化器外科	○	消化器外科	○	内科 外科	○	消化器科 外科
縦隔腫瘍	○	血液・腫瘍内科	○	腫瘍内科 呼吸器外科	○	内科 外科	○	外科 呼吸器科
中皮腫	○	血液・腫瘍内科	○	腫瘍内科 呼吸器内科	○	内科 外科	○	外科 呼吸器科
膵がん	○	消化器内科 一般・消化器外科	○	肝胆膵内科 消化器外科	○	内科 外科	○	外科 消化器科
腎がん	○	泌尿器科	○	泌尿器科	○	泌尿器科	○	泌尿器科 消化器科
膀胱がん	○	泌尿器科	○	泌尿器科	○	泌尿器科	○	泌尿器科
尿管がん	○	泌尿器科	○	泌尿器科	○	泌尿器科	○	泌尿器科
胆嚢がん・胆管がん	○	一般・消化器外科	○	肝胆膵内科 消化器外科	○	内科 外科	○	外科 消化器科
前立腺がん	○	泌尿器科	○	泌尿器科	○	泌尿器科	○	泌尿器科
精巣がん	○	泌尿器科	○	泌尿器科	○	泌尿器科	○	泌尿器科
その他の男性生殖器がん	○	泌尿器科	○	泌尿器科			○	泌尿器科
子宮がん	○	産婦人科・放射線科	○	産婦人科	○	産婦人科	○	産婦人科
卵巣がん	○	産婦人科	○	産婦人科	○	産婦人科	○	産婦人科
その他の女性生殖器がん	○	産婦人科	○	産婦人科			○	産婦人科
皮膚腫瘍	○	皮膚科	○	皮膚科	○	皮膚科	○	皮膚科
悪性骨軟部腫瘍					○	整形外科		
血液腫瘍	○	血液・腫瘍内科	○	血液内科	○	内科		
小児固形腫瘍			○	小児外科 小児科				
小児血液腫瘍			○	小児科				
原発不明がん	○	血液・腫瘍内科	○	腫瘍内科	○	内科 外科	△	外科 放射線科 消化器内科
性腺外胚細胞腫瘍	○	血液・腫瘍内科	○	腫瘍内科	○	内科 外科		
GIST(Gastrointestinal Stromal Tumor:消化管間質腫瘍)	○	消化器内科 一般・消化器外科	○	消化器外科	○	内科 外科	○	外科 消化器科

△は、専門としていないが、診療可能ながん

佐賀大学医学部附属病院 外来化学療法室

外来化学療法室は、がんの患者さんがご自宅で日常生活を送りながら、安全に治療を継続できる環境を確保するために、平成17年に設置されました。消化器がん、肺がん、乳がん、血液がんなど各種のがんの患者さんの外来治療を行っています。抗がん剤の組み合わせや新しい治療薬が続々と開発され、がんの治療法は年々多様化するなかで、患者さん一人一人に対して世界的に認められた標準的治療を行うとともに、分子標的治療薬などの新しい治療法も実施しています。治療ベッド数は15床で、平成24年度は年間延べ5389名の治療を行っています。専門外来部門と隣接することから、外来診察から化学療法室への移動のご負担は少なくなっています。現在、ベッド数の少なさや床面積の狭さから患者さんがたにご迷惑をおかけしておりますが、再整備によって30床のNew化学療法室への移行を予定しております。

現在取り扱っている疾患；

- 消化器がん；大腸がん、胃がん、食道がん
- 乳がん
- 肺がん
- 血液がん（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など）
- 婦人科がん
- 泌尿器がん
- 小児がん
- 皮膚がん
- がん以外の分子標的治療（自己免疫疾患、消化器疾患など）



外来化学療法室の推移

	ベッド数	のべ件数 (化学療法)	のべ件数 (その他)	ベッド当たり 1日患者数	化学療法室 専従医師	がん薬物療法 専門医	がん認定 看護師	がん薬物療法 認定薬剤師	がん専門 薬剤師
H17	12	188	0	0.05	0	0	1	0	0
H18	12	2113	531	0.8	0	0	1	0	0
H19	12	2298	617	0.9	0	0	1	1	0
H20	12	2380	573	0.9	0	0	1	1	1
H21	12	2610	378	0.9	0	0	1	1	1
H22	15	3866	492	1	1	0	1	2	1
H23	15	4850	411	1.3	1	3	1	2	1
H24	15	5389	431	1.4	2	4	1	4	1
H25(5月)	15	2108	222	1.5	2	6	1	4	1

地域医療連携室の業務

- 1 地域医療機関との連携
 - ・紹介患者の来院、入退院報告
 - ・紹介医療機関へのフィルムの返却
 - ・外来担当医師一覧の作成並びに医療機関への発送
 - ・紹介元への報告書作成状況の確認
 - ・講演会並びに研修会等の開催
 - ・地域医療連携室会議の開催
- 2 患者の診療予約
 - ・医療機関からの紹介患者の予約登録
 - ・再来患者の予約変更登録
 - ・診療予約並びに受診に際しての案内
- 3 連携医療機関、大学病院等のデータベース作成
- 4 総合案内
 - ・がん診療連携拠点病院窓口業務（がん相談）

お問い合わせ先

佐賀大学医学部附属病院地域連携室

Tel.0952-34-3482

受付時間：平日9時00分～17時00分

